


報 告 書

調査・研究 テーマ	アーツカウンシルの課題を先進事例から学ぶ
目 的	発足したアーツカウンシルさいたまの運営に活かすため
内 容	<p>日 時：2023年7月12日（水） 14：00～15：30</p> <p>視察先：堺アーツカウンシル 堺市堺区南瓦町3-1 堺市役所内</p> <p>説明者：文化観光局文化国際部文化課 課長 花木 義幸 氏 係長 藤田 美咲 氏</p> <p>参加者：阪本 克己、高柳 俊哉、佐伯 加寿美、出雲 圭子、 松本 翔、佐々木 郷美、堤 日出喜、相川 綾香、 永井 里菜</p> <p>報告書作成者：堤 日出喜</p>
概 要	<p>アーツカウンシルとは専門性を持つスタッフが各種芸術文化の事業への助成を基軸に、行政組織と一定の距離を保ちながら文化事業を推進する組織のことである。</p> <p>堺アーツカウンシルは、市民の芸術事業への助成や、幅広い相談を受けられるように2020年に芸術の専門家により構成される組織として設置された。一般的なアーツカウンシルでは事務局に補助金申請の審査権限が付与される場合が多いが、堺市の場合、補助金申請を審査する組織（堺市文化芸術審議会）とアーツカウンシル事務局は切り離されている。そのことで申請者とアーツカウンシルとのなれ合いを防ぐことができるというメリットがある。</p> <p>堺市のアーツカウンシルは、プログラム・ディレクター1名、プログラム・オフィサー5名で組織（女性3人、男性3人）。</p> <p>活動内容は、文化芸術活動に関する相談業務、相談事例の分析などの調査研究業務、勉強会・交流会の開催、補助金申請・活動サポートなどである。</p> <p>設置したことでのメリットとして、芸術家と行政の交流が設</p>

<p>概 要</p>	<p>置以前よりも増えたことである。多くの補助金事業が市内で開催され、市民が文化芸術に触れる機会が増え、文化芸術振興の促進に役立っている。しかしながら課題として、その成果を数値で測ることが難しいこと、また芸術家への伴走支援をしているが、あまり干渉してほしくない芸術家もおり、ニーズが少ないこと、今後いかにアーツカウンシルを広報していくかなどである。</p> <p>質疑応答では、アーツカウンシルに対する議会の反応など問われた。議会には今のところ好意的に見られているが、今後は成果を問われる可能性があるため、交流会参加者数など、成果を数値で議会に示す努力をするとのことであった。</p> 
<p>所 見 成 果</p>	<p>さいたま市のアーツカウンシルは2021年3月に改訂された「さいたま市文化芸術都市創造計画」を受けて2023年4月から設置された。今回の視察から、私たちはまだ設置されてから日が浅いアーツカウンシルさいたまの運用面で活用できる知見を得ることができた。</p> <p>アーツカウンシルさいたまも助成（補助金）事業を実施しているが、助成先の審査選定はアーツカウンシル事務局で行い、事務局とは別の外部有識者で構成されるアドバイザリーボードを組織し、助成事業のみならずアーツカウンシルの事業計画や人材育成及び政策提言に対する評価、助言を行う仕組みとなっている。さいたま市の方式の方がアーツカウンシルの事業に一貫性を持たせるという意味では優位性があるようにも感じられる。一方、堺市のように補助金の審査機関自体を事務局から切り離す方式は、補助金申請者と補助金審査者のなれ合いを防ぐ</p>

<p>所見 ・ 成果</p>	<p>というメリットが大きい。堺市方式とさいたま市方式のそれぞれで一長一短がある可能性があるため、今後も堺市の取り組みを注視していく。</p> <p>また、いかにアーツカウンシルを市民に広報するか、事業の成果をどのように測るかなど、堺アーツカウンシルでの課題はさいたまアーツカウンシルさいたまでも生じる可能性がある。アーツカウンシルが社会情勢に係ることなく忌憚のない議論ができるよう独立性を保つことを含め、今後本議会や委員会での質問に繋げていきたい。</p>
<p>会派基本方針</p>	<p>14. 誰もが健康で心豊かにスポーツ・文化にふれあえるまち</p>